

自由が丘横山内科 クリニック 院内新聞

第3号
平成17年
3月

平成十七年三月七日当クリニックで開催した『第十一回糖尿病講習会』には寒い時期にも関わらず、多くの皆様に足を運んでいただきました。今回足立眼科医
院足立純一先生をお招きし、専門的立場からの講演に参加者の方からも参考になつたとの声が多く聞かれました。それでは講演内容を簡単に紹介していきます。

糖尿病網膜症

足立眼科医

院長 足立純一

どうして眼科受診が必要なのか？
糖尿病で眼科受診を必要

とする一つめの理由は、さまざまな合併症をおこす為です。網膜症(もうまくしよ)白内障、顔筋麻痺、角膜障害、緑内障、ぶどう膜炎、視神経症などがあります。

糖尿病網膜症について

理由の二つめは糖尿病の初期でも網膜症を発症することがあるからです。糖尿病の罹病期間が長くなるにつれ網膜症の発症率は高くなります。糖尿病を発症してから五年で20%、十年で40%、二十年には80%の方に網膜症が出現します。糖尿病と長く付き合っていると網膜症は必発なのです。

そして眼科受診が必要な理由の三つ目は網膜症は自覚症状が出づらいということ
です。黄斑症や硝子体出血をおこななければ視力は低下しません。そのため定期的な受診が重要です

どうして網膜症になるのか

血糖値が上昇すると網膜の毛細血管の内側が損傷をうけます。この状態では血液が固まりやすくなり血栓(血液の固まり)ができて血管がつまります。また血糖値が上昇すると網膜がはれあがって(網膜浮腫)、酸素不足となります。そのため新しい血管をつくって酸素不足を補おうとします。網膜に新しい血管ができる



【糖尿病に必要な眼検査】

- ★ 視力検査
- ★ 眼底検査
- ★ 蛍光眼底造影

※検査で散瞳剤瞳孔を開くめ(すり)を使用する場合眼がまぶしい状態が一時間以上続きます。運転は控え、どうしても自分で運転して病院に行く場合は代行運転を頼むのもひとつの手です

硝子体出血や、そこから進行して網膜剥離(もうまくはくり)になり、また虹彩(こうさい)に血管ができると緑内障となります。

網膜剥離や緑内障を放置し病状が進行すると失明してしまいます。**糖尿病が原因で失明する人の数は年間3500人から4000人となつていきます。**

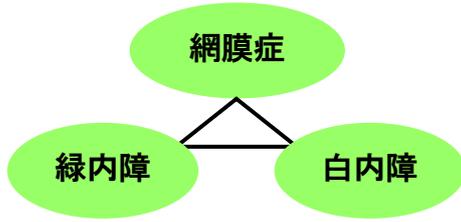
網膜症の治療

網膜症がどの程度進行しているのかを福田分類という方法で分類します。大きくは二つに分類されA良性網膜症(症状がとまっていない)、B悪性網膜症(症状が進行中)の記号で表されます。

網膜症の治療には

- ① 薬物療法
 - ② 光凝固
 - ③ 硝子体手術
- があります。

糖尿病眼の三重苦



しかし網膜症の治療において一番大事なのは血糖値のコントロールです。

糖尿病における網膜症、白内障、緑内障、これら三つの眼の病気が互いに悪影響を及ぼし治療の支障になります。

糖尿病で失明しないために

- 内科治療を中断しないでください
- とにかく眼科も受診してください

眼科受診はHbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)が5%台であれば一年に一回、7%台では三ヶ月から半年に一回の通院をし、眼科医の指示にしたがってください。受診時には糖尿病手帳、眼手帳を持参し活用してください。

友情出演

つがやす歯科医院

つがやす先生

歯を失う1番の原因は歯周病です。

歯周病のリスクを高めるのは

①タバコ②糖尿病です。

また糖尿病では感染しやすく、治りにくいのです。

他科との連携が大切ですね。

院長より

講習会の後日、診察室で患者さんから“やっぱり眼科に行くようにするわ”とか、“写真で目の合併症を見ることがきて、わかりやすく勉強になったよ”などと言われています。やはり専門の先生にお話いただくことは大事だと改めて感謝しています。

今回のお話をまた皆さんの健康増進に役立ててください。

編集後記

長い冬もいよいよ終わりに近づいてきましたが、まだまだ風邪で体調を崩される方が多いようです。

今回の講習会ではスライドが見えにくいなど会場設営上の問題点もあり、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。今後講習会で取り上げてほしいテーマや、講習会へのご意見・ご要望はお気軽に院長、スタッフまでお寄せください。



第十二回糖尿病講習会は平成十七年六月開催予定です
ご参加お待ちしております